

台風・豪雨被害と地方経済

～ 台風 22 号まで農業関係だけでも 3,000 億円の被害 ～

渡部喜智 木村俊文

例年にない数の台風の接近・上陸などが見られる。戦後、台風の上陸数が最も多かったのは1990年、93年の6個。また過去30年(1971～2000年)の平均上陸数は2.6個であったが、今年は10月20～21日にかけて日本列島を通過した23号までで10個ⁱを数える。

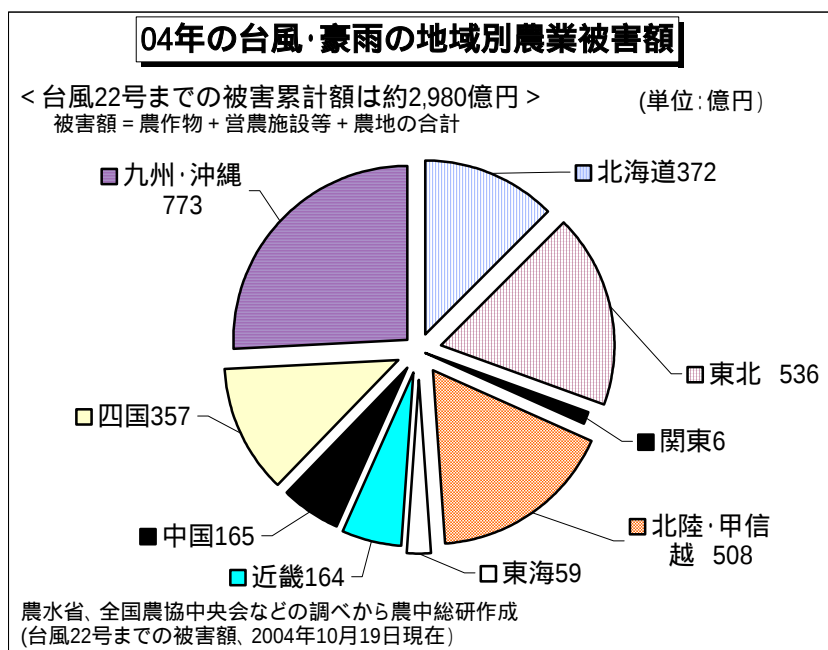
これらによる死傷者の人的被害は勿論だが、物的損害はことのほか大きく、被害地域を中心に思わぬ景気減速要因になりかねない。

まず、一連の台風・豪雨によって農業関係において大きな被害が生じている。被害地域はなかり分散しているが、九州・沖縄、東

北、北陸・甲信越の各地域の台風22号までの被害額は500億円を超しており、全国の累計被害額は約3千億円となっているⁱⁱ(図1)。

局地的には水稻、果樹などに壊滅的な被害が発生しており、前述の被害額以上に負の効果が懸念されるところも多い。全国的に水稻の収穫量への影響ⁱⁱⁱは不確定ながら、長雨による野菜の不出来・出荷減少から、野菜価格が大きく上昇している。

また、倒壊・破損・浸水など一般家屋等への被害も甚大である。国土交通省の調べによれば、台風22号までの全壊・半壊・一部破損家屋数は2.27万戸、浸水家屋は10.3万戸とな



っており、かつてない被害である。

ちなみに、03年は東日本を中心に冷害であったが、台風上陸は2個に過ぎず、合計の全壊・半壊・一部破損家屋数は1,000戸に満たなかった。

表1 台風・豪雨による一般家屋の被害状況

台風 容	内	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
7月豪雨		22	156	85	4,022	22,620
台風6号		0	0	9	0	3
台風10・11号		9	9	56	214	2,313
台風15号		4	1	7	29	945
台風16号		15	78	3,968	15,249	28,999
台風18号		59	279	15,082	1,299	5,799
台風21号		64	67	1,735	5,576	12,777
台風22号		12	18	1,032	627	2,391
合計		185	608	21,974	27,016	75,847

国土交通省調べ資料から農中総研作成

地域別にみてもほぼ全域で景況感が2ヵ月連続で悪化しているが、8月は九州(前月比▲6.8ポイント)で、また9月は沖縄(同▲8.8ポイント)と北陸(同▲8.4ポイント)で低下幅が大きい。これらの地域は、いずれも

台風通過による被害の影響が顕著に表れたと見られる^{iv}。

9月景気ウォッチャー調査の『景気判断理由集』から台風の影響に関する意見を拾ってみると、「大型台風の影響で観光関連サービス業や農水産業に悪影響」(沖縄・求人情報誌製作・営業担当)、「2度にわたる台風の影響で2日

間臨時休業となったため、売上が10～13%減少」(沖縄・百貨店・担当者)、「台風の影響により旅行客が減少、レストラン・宿泊収入ともに減収」(北陸・都市型ホテル・スタッフ)などの悪影響の意見がある一方、「水害等の特需もあり、改装の受注が非常に増加」(北陸・住宅販売・従業員)、「台風の影響がプラス要因となり今月は前年比を大幅にクリア」(近畿・ビデオCDレンタル・エリア担当)などの意見もあった。

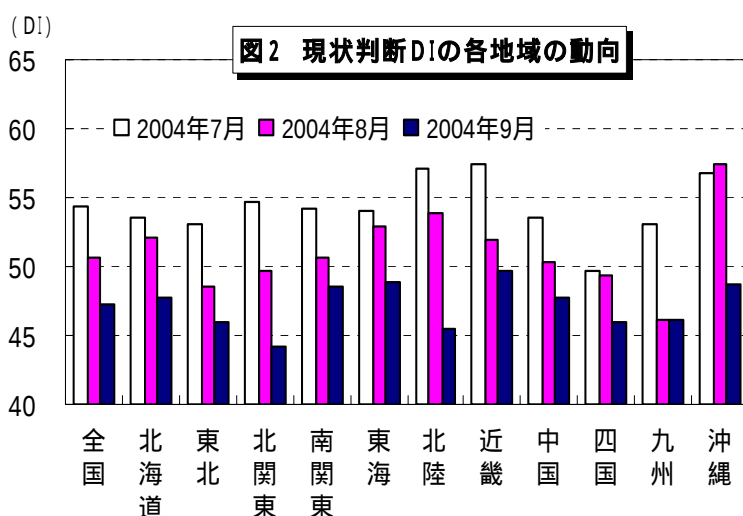
このように業種によって影響はさまざまだが、総じて見れば台風の影響は、消費者心理や地域経済にとってマイナス要因といえよう。

以上のように、すでに心理面での懸念が出ているが、今後、実物面での負の波及効果が懸念される。特に農業関係の比重が高い地域では、農業被害による所得減少と復旧投資負担の悪影響が年末に

九州・沖縄・北陸で早くも景況感が悪化

消費者心理面には台風被害による景況感の減速傾向がすでに表れている。

景気に敏感なタクシー運転手ら約2,000人を対象に、9月下旬の街角の景況感をたずねた「景気ウォッチャー調査(9月)」によれば、9月は厳しい残暑に加え相次ぐ台風の影響で、現状判断DI(3ヶ月前と比べた景気の現状判断)が前月比3.4ポイント低下の4



内閣府「景気ウォッチャー調査」より農中総研作成

7.3と2ヵ月連続で悪化した(図2)。

かけて実際に表れて来ると、無視出来ない影響があるだろう。

また、一般家屋の建替え・修理や耐久財の買い替えなども一時的には需要増加のように見えるが、タイムラグを置いて、支出抑制につながる可能性が大きい。

台風・豪雨の被害は、景気回復の波及効果がじわりと及び始めた地方経済にとって、消費関連を中心に予想外の逆風になりかねない。年末以降の地域経済への動向に注意したい。

ⁱ 通過経路は下表のとおり

台風豪雨	7月梅雨災害	台風6号	台風10・11号	台風15号と前線に伴う大雨	台風16号	台風18号	台風21号	台風22号	台風23号
通過地域	・7月中旬に新潟、福井、福島など北陸から東北にかけて、梅雨末期の豪雨が発生	・6月下旬に四国、近畿、東海地方を中心に大雨、沖縄、九州から東北地方にかけて広範囲で暴風。	・台風10号：7月下旬に四国・中国地方を縦断。西日本中心に大荒れ。 ・台風11号：8月上旬、徳島に上陸、四国・中国地方を縦断。西日本太平洋側で大雨・暴風。	・台風15号：8月中旬に沖縄・長崎を通過し、日本海を経て青森に上陸。 ・この台風と前線の影響により、四国、九州、東北の北部や北海道南部で暴風雨。	・8月末に鹿児島上陸。九州・中国地方を通過、日本海を経て北海道を縦断。 ・九州から北海道まで広範囲で大雨・暴風。	・9月上旬に沖縄を通過し長崎に上陸。山陰・北陸、東北・北海道に進む。 ・九州から北海道まで広範囲で大雨・暴風。 ・全国各地で記録的な暴風。	・9月下旬に鹿児島と高知県に上陸。その後は近畿から三陸沖へ。 ・三重、奈良を中心に九州、四国、近畿で大雨・暴風。鹿児島市では記録的な暴風。	・10月上旬に静岡県伊豆半島に上陸。その後は関東を通過し鹿島灘に抜けた。 ・東海、関東南部に大雨、台風の中心付近の狭い地域で猛烈な風。	・10月下旬に、高知県に上陸。その後は近畿地方に再上陸し、本州を縦断して銚子沖へ。 ・各地に暴風や高波、大雨による被害をもたらす、今年最悪の台風被害に。

(気象庁資料から農中総研作成)

ⁱⁱ 農林水産省調べによれば、台風22号の農業被害は10月19日現在39.2億円である。また、林地荒廃の被害が累計で17.7百億円、水産施設破壊などの被害も累計5.0百億円となっている。

ⁱⁱⁱ 農林水産省発表の9月10日時点の作況指数は101であり平年作並み以上という見通し。しかし、それ以後台風21、22号が上陸しており一定の収穫減少が考えられる。

^{iv} の台風通過経路参照